

14時30分解禁

平成26年3月 全国百貨店売上高概況

平成26年4月17日

I. 概況

1. 売上高総額	6,818億円余
2. 前年同月比	25.4% (店舗数調整後/5か月連続プラス)
3. 調査対象百貨店	85社 242店 (平成26年2月対比±0店)
4. 総店舗面積	6,228,076㎡ (前年同月比: -0.4%)
5. 総従業員数	79,489人 (前年同月比: -2.1%)
6. 3か月移動平均値 (店舗数調整後)	8-10月 1.5%、9-11月 1.5%、10-12月 1.3%、 11-1月 2.3%、12-2月 2.4%、1-3月 11.0%

[参考] 平成25年3月の売上高増減率は3.9% (店舗数調整後)

【3月売上の特徴】

消費税率引上げを目前にした駆け込み需要を背景に、前年同月比25.4%増(5か月連続プラス)と、前回の引上げがあった'97年3月(+23.0%)を超える大幅な伸びを示した。

本年3月は、月の前半、不安定な天候の影響を受けたものの、中旬以降の駆け込み需要増大と外商商材の計上促進を活かし、前年同月比の実額で約1,370億円上積みすることができた。この結果、1月-3月の累計売上高は約1兆6,850億円余と前年同期比で約1,600億円増(店舗数調整前/+10.6%)を記録した。

地区別では、全地区で二桁増となり、中でも10都市については揃って2割増を上回るなど、大都市を中心に地方の健闘もあって、消費税率引上げ前の需要増を取り込むことが出来た。特にシェアの高い東京(+25.5%)の好調と併せ、大阪(+32.1%)、名古屋(+37.3%)、神戸(+30.0%)がいずれも3割を超える伸びを示したことが全国を牽引する形となった。

商品別でも、全品目で前年同月比プラスとなったが、主力の衣料品が2割増に迫った他、特選ブランド(身のまわり品:+38.6%)や美術・宝飾・貴金属(+113.7%)など高額品の伸びが著しく、家具(+64.0%)や化粧品(+61.2%)も前倒し需要などで大幅増となった。特に、主要5品目の内、身のまわり品と雑貨(+67.2%)は統計開始以来最高の伸びを記録した。

訪日外国人については、東アジア(中国、台湾、香港、韓国)と成長市場アセアン(タイ、シンガポール、マレーシア等)を中心に、引き続き売上(+69.8%)・客数(+56.1%)共に大幅な伸びを示している。

季節催事のホワイトデー商戦や地方物産展の積極展開で好調に推移した食料品(+5.0%)、卒入学・新生活需要が牽引した家庭用品(+39.1%)も含め、全地区・全商品が前年同月をクリアするなど、商況全般にわたって極めて活況に推移した。

【要因】

(1) 天候：気象庁発表「3月の天候」の特徴は以下のとおり(一部抜粋)

◇ 月の前半は、日本付近に強い寒気が流れ込み、全国的に低温となり、山沿いや北日本では大雪となった所があった。月の終わり頃には南からの暖かい空気が流れ込み平年気温を大幅に上回った。降水量は全国的に多かった。

(2) 営業日数増減 30.9日(前年同月比±0.0日)

(3) 土・日・祝日の合計 11日(〃 ±0日)

(4) 入店客数増減(回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数138店舗)

①増加した: 77店、②変化なし: 34店、③減少した: 27店

(5) 3月歳時記(ひな祭り、ホワイトデー、卒業・入学、新生活)の売上(同上/有効回答数102店舗)

①増加した: 44店、②変化なし: 45店、③減少した: 13店

NEWS LETTER

全国百貨店 売上高速報 2014年03月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後 ()が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
全 国	681,879,932	100.0	25.4 (25.2)
10都市	459,726,632	67.4	28.5 (28.1)
札幌	17,280,609	2.5	27.6
仙台	9,832,762	1.4	25.6
東京	171,680,467	25.2	25.5 (24.6)
横浜	40,076,495	5.9	28.3
名古屋	46,847,831	6.9	37.3
京都	26,289,608	3.9	25.2
大阪	94,345,869	13.8	32.1
神戸	17,994,603	2.6	30.0
広島	13,819,927	2.0	24.0
福岡	21,558,461	3.2	27.5
10都市以外の地区	222,153,300	32.6	19.4 (19.5)
北海道	3,824,524	0.6	14.8
東北	11,861,887	1.7	14.9
関東	106,832,216	15.7	18.8 (19.0)
中部	16,121,159	2.4	16.2
近畿	20,557,052	3.0	15.4
中国	15,453,690	2.3	25.6
四国	13,231,392	1.9	30.6
九州	34,271,380	5.0	20.9

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	681,879,932	100.0	25.4 (25.2)
紳士服・洋品	42,672,779	6.3	16.9 (16.7)
婦人服・洋品	149,090,312	21.9	15.3 (15.1)
子供服・洋品	25,708,750	3.8	15.9 (15.9)
その他衣料品	20,283,337	3.0	61.0 (60.8)
衣 料 品	237,755,178	34.9	18.5 (18.3)
身のまわり品	96,850,905	14.2	38.6 (38.4)
化粧品	48,469,253	7.1	61.2 (61.1)
美術・宝飾・貴金属	55,899,860	8.2	113.7 (113.4)
その他雑貨	26,891,404	3.9	20.8 (20.7)
雑 貨	131,260,517	19.2	67.2 (67.1)
家 具	11,912,291	1.7	64.0 (62.7)
家 電	2,308,697	0.3	53.2 (53.2)
その他家庭用品	22,933,746	3.4	27.9 (27.8)
家 庭 用 品	37,154,734	5.4	39.1 (38.8)
生 鮮 食 品	27,371,724	4.0	4.0 (4.0)
菓 子	47,222,111	6.9	5.1 (4.9)
惣 菜	29,837,765	4.4	3.2 (3.1)
その他食料品	38,476,595	5.6	7.1 (7.1)
食 料 品	142,908,195	21.0	5.0 (4.9)
食 堂 喫 茶	15,800,884	2.3	0.2 (0.1)
サ ー ビ ス	7,262,574	1.1	24.7 (24.7)
そ の 他	12,886,945	1.9	21.8 (20.5)
商 品 券	15,968,170	2.3	-0.3 (-0.4)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

Ⅱ. 地区別の動き

- | | |
|------------------|-------------------------|
| 1. 10都市売上動向 | 28.5% (店舗数調整後／8か月連続プラス) |
| 2. 10都市以外の地区売上動向 | 19.4% (店舗数調整後／2か月ぶりプラス) |

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比	寄与度	トレンド
10都市	28.5	18.7	8か月連続プラス
札幌	27.6	0.7	8か月連続プラス
仙台	25.6	0.4	2か月ぶりプラス
東京	25.5	6.4	8か月連続プラス
横浜	28.3	1.6	5か月連続プラス
名古屋	37.3	2.3	8か月連続プラス
京都	25.2	1.0	5か月連続プラス
大阪	32.1	4.2	17か月連続プラス
神戸	30.0	0.8	2か月連続プラス
広島	24.0	0.5	2か月連続プラス
福岡	27.5	0.9	5か月連続プラス
10都市以外の地区	19.4	6.6	2か月ぶりプラス
北海道	14.8	0.1	2か月連続プラス*
東北	14.9	0.3	3か月連続プラス*
関東	18.8	3.1	2か月ぶりプラス
中部	16.2	0.4	2か月連続プラス
近畿	15.4	0.5	4か月ぶりプラス
中国	25.6	0.6	5か月連続プラス*
四国	30.6	0.6	5か月連続プラス
九州	20.9	1.1	2か月連続プラス*

(注) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行した。(2005年までは6大都市)

Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目では、雑貨が17か月連続、身のまわり品が8か月連続、家庭用品が6か月連続、食料品が3か月連続、衣料品が2か月ぶりのプラスと、2か月ぶりに全品目がプラスとなった。また、美術・宝飾・貴金属が三桁のプラス、食料品の各品目は一桁のプラスとなったが、その他の品目は二桁プラスと、全アイテムがプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	25.4	—	5か月連続プラス
紳士服・洋品	16.9	1.1	2か月ぶりプラス
婦人服・洋品	15.3	3.6	2か月ぶりプラス
子供服・洋品	15.9	0.6	6か月ぶりプラス
その他衣料品	61.0	1.4	3か月連続プラス
衣料品	18.5	6.8	2か月ぶりプラス
身のまわり品	38.6	5.0	8か月連続プラス
化粧品	61.2	3.4	5か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	113.7	5.5	19か月連続プラス*
その他雑貨	20.8	0.9	3か月連続プラス*
雑貨	67.2	9.7	17か月連続プラス
家具	64.0	0.9	8か月連続プラス
家電	53.2	0.1	2か月連続プラス
その他家庭用品	27.9	0.9	4か月連続プラス
家庭用品	39.1	1.9	6か月連続プラス
生鮮食品	4.0	0.2	3か月連続プラス*
菓子	5.1	0.4	4か月連続プラス*
惣菜	3.2	0.2	2か月ぶりプラス*
その他食料品	7.1	0.5	2か月連続プラス*
食料品	5.0	1.3	3か月連続プラス
食堂喫茶	0.2	0.0	6か月ぶりプラス
サービス	24.7	0.3	4か月連続プラス
その他	21.8	0.4	3か月連続プラス
商品券	-0.3	0.0	37か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

平成26年3月 東京地区百貨店売上高概況

平成26年4月17日

I. 概況

1. 売上高総額	1,716億円余
2. 前年同月比	25.5% (店舗数調整後/8か月連続プラス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭26.6%(89.9%) : 非店頭16.5%(10.1%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (平成26年2月対比±0店)
5. 総店舗面積	871,395㎡ (前年同月比: -4.3%)
6. 総従業員数	18,740人 (前年同月比: 2.1%)
7. 3か月移動平均値 (店舗数調整後)	8-10月 3.3%、9-11月 2.9%、10-12月 3.0%、 11-1月 4.2%、12-2月 4.2%、1-3月 12.3%

[参考] 平成25年3月の売上高増減率は6.4% (店舗数調整後)

【3月売上の特徴】

- (1) 東京地区の売上高伸び率は、これまで全国を1%~3%弱上回る水準で推移してきたが、当月は、主要10都市の多くで駆け込み需要が東京より強く現れたことから、結果的に全国平均(+25.4%)とほぼ並ぶ水準に落ち着いたことが特徴となっている。
- (2) 商品別でも、全国同様に全品目で前年同月を上回り、品目毎の伸び率も全国とほぼ同様の傾向を示したことが特徴となっている。特選ブランド(身のまわり品:+31.8%)や美術・宝飾・貴金属(+103.3%)、呉服・高級寝具(その他衣料品:+68.7%)などの高額商材が極めて高い伸びを記録した他、化粧品(+64.4%)や家庭用品(+41.3%)も大幅増で推移した。
- (3) 高額商材とは対照的に、デイリー商材の食料品(+4.0%)については大きな駆け込み需要もなく堅調な動きであったが、ワインやグローサリーなどの一部アイテムでまとめ買いの傾向も見られた。
- (4) 季節催事のホワイトデー商戦は、2月のバレンタイン商戦が好調であったことに連動して、多くの店が二桁増を記録するなど活況であった。
- (5) 東京地区の4月中間段階(4月14日)までの商況は、前年を15%程度下回る水準で推移しているが、日を追う毎に減少幅は縮小している。また、銀座地区や新宿地区の店舗では訪日外国人売上の急伸が下支え要素となっている。

【要因】

- (1) 営業日数増減 31.0日 (前年同月比±0.0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数19店舗)
①増加した: 14店、②変化なし: 3店、③減少した: 2店
- (3) 3月歳時記(ひな祭り、ホワイトデー、卒業・入学、新生活)の売上 (同上/有効回答数12店舗)
①増加した: 6店、②変化なし: 5店、③減少した: 1店

NEWS LETTER

東京地区百貨店 売上高速報 2014年03月

※店舗数調整後 ()が調整前

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	171,680,467	100.0	25.5 (24.6)
紳士服・洋品	13,096,514	7.6	18.1 (17.5)
婦人服・洋品	33,968,322	19.8	14.1 (12.9)
子供服・洋品	6,312,027	3.7	18.4 (18.3)
その他衣料品	3,990,239	2.3	68.7 (67.5)
衣 料 品	57,367,102	33.4	18.1 (17.2)
身のまわり品	25,037,764	14.6	31.8 (30.9)
化粧品	12,257,569	7.1	64.4 (64.1)
美術・宝飾・貴金属	16,404,970	9.6	103.3 (102.5)
その他雑貨	8,039,929	4.7	20.2 (19.9)
雑 貨	36,702,468	21.4	65.2 (64.8)
家 具	3,609,682	2.1	68.3 (63.9)
家 電	1,159,506	0.7	42.7
その他家庭用品	5,605,978	3.3	27.8 (27.4)
家 庭 用 品	10,375,166	6.0	41.3 (39.9)
生 鮮 食 品	4,813,786	2.8	3.6 (3.0)
菓 子	11,120,981	6.5	4.9 (4.0)
惣 菜	6,736,267	3.9	2.7 (1.9)
その他食料品	8,988,819	5.2	4.1 (3.7)
食 料 品	31,659,853	18.4	4.0 (3.3)
食 堂 喫 茶	3,457,394	2.0	2.1 (1.4)
サ ー ビ ス	2,935,793	1.7	26.4
そ の 他	4,144,927	2.4	17.3 (13.5)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率 (%)

※

商 品 券	3,386,435 千円	-5.5 (-6.1)
従 業 員 数	18,740 人	2.1
店 舗 面 積	871,395 m ²	-4.3

営 業 日 数	31.0 日	前年	31.0 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目では、雑貨が13か月連続、身のまわり品が8か月連続、家庭用品が5か月連続、衣料品が2か月ぶり、食料品が6か月ぶりのプラスと、9か月ぶりに全品目がプラスとなった。また、全国同様、美術・宝飾・貴金属が三桁のプラス、食料品の各品目は一桁のプラスとなったが、その他の品目は二桁プラスと、全アイテムがプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	25.5	—	8か月連続プラス
紳士服・洋品	18.1	1.5	2か月ぶりプラス
婦人服・洋品	14.1	3.1	2か月ぶりプラス
子供服・洋品	18.4	0.7	6か月ぶりプラス
その他衣料品	68.7	1.2	5か月連続プラス
衣料品	18.1	6.4	2か月ぶりプラス
身のまわり品	31.8	4.4	8か月連続プラス
化粧品	64.4	3.5	20か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	103.3	6.1	15か月連続プラス*
その他雑貨	20.2	1.0	2か月連続プラス*
雑貨	65.2	10.6	13か月連続プラス
家具	68.3	1.1	5か月連続プラス
家電	42.7	0.3	2か月連続プラス
その他家庭用品	27.8	0.9	4か月連続プラス
家庭用品	41.3	2.2	5か月連続プラス
生鮮食品	3.6	0.1	2か月連続プラス*
菓子	4.9	0.4	2か月ぶりプラス*
惣菜	2.7	0.1	7か月ぶりプラス*
その他食料品	4.1	0.3	2か月連続プラス*
食料品	4.0	0.9	6か月ぶりプラス
食堂喫茶	2.1	0.1	2か月ぶりプラス
サービス	26.4	0.4	4か月連続プラス
その他	17.3	0.4	3か月連続プラス
商品券	-5.5	-0.1	35か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・西田まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>